

幸せな贈り物

## 憑依 (ひょうい)

## その隠された苦しみからの解放

魂が出て行ったまま3年を送った 「イリヨン オムニ」という番組でよく知られている中堅俳優キム・スミさんが「アルコール中毒に自殺まで試みた」という衝撃的な告白をしました。「1998年、姑が私の演劇ポスターを自分で貼ってあげようとするときに、原因不明の自動車急発進事故で亡くなり、その衝撃でまったく飲食せずにお酒におぼれる生活を送り始め、3年間、何もできなかつた。結局、深刻なうつ病になってアルコール中毒になった。震えたまま3年を送った」と明らかにしました。「その当時、現代の医学では私の状態をうつ病だといったが、他方では『悪霊につかれた』とか『憑依』したと言われて、悪霊退治の治療まで受けた」と打ち明けた彼女は、憑依の症状で、懇意にしていた同僚キム・ヘジャ氏に「私が死んだら私の墓に朝顔を植えてくれ」という遺言を残して自殺を試みる切迫した状況までなったと言いました。出口が見られなかったとき、お寺でお祓いの儀式を受け、彼女にとりついていた姑に「離れてくれ」という儀式を終えたあと、良くなったと告白しました。

また、韓国の最初の女子高生化粧品モデルとして「若さの行進」のMCを経て、80年代最高のハイテ



ィーンスターとして活躍した芸能人パク・ミリョンさんは、有名歌手と結婚して芸能界を引退し、一人の男の子の妻として幸せな生活を送っていたときに、突然訪ねてきた悪霊の病に自殺まで試みました。長い間、自分を

苦しめていた原因が、悪霊の病という事実を知っても認めたくなかつたパク・ミリョンは、極度に激しいうつ病に苦しめられて、正常な夫婦生活はもちろん、家族と近い知人とも離れるようになりました。避けることさえできるならば避けたかった霊媒師の人生だったのですが、悪霊に自分を明け渡さなければ、自分の息子に悪霊の病気が受け継がれるという鳥肌が立つほど怖い事実のために、結局、パク・ミリョンは悪霊にすべてを明け渡して、今でも霊媒師として活動しています。

**憑依の原因と治療方法** 東京大学医学部外来教授であり、国立精神保健研究所研究員であるパク・サンフェ博士は、憑依の病気の原因と治療方法について、このように明らかにしています。憑依という漢字は、「寄り添う憑」「頼る依」から形成されていて、辞書的意味では「頼ること、寄り添うこと、他の人の力を信じること」という意味です。しばしば憑依の病気を(悪霊に取りつかれること、神がかりになる

こと)を「悪霊がからだに入って他の人格体を形成する現象」と言います。憑依をもう少し深く定義すれば、次のようです。かたちがない何かによって、自ら自分を支えることができなくて、他人に寄り添って頼ろうと思うことです。ある強い力で支配され、自分の考えと意志のとおり行動できなくて、他の力に操縦され、非正常的に動く現象です。

なぜ憑依状態になるのでしょうか。過去の傷、大きい衝撃による精神的な傷、罪悪感、予想できない事故、理由ない不安と恐怖、コンピュータを長くしたり魔法術、妖術、占星術、アルコール、麻薬、ハードロックミュージック、誤った特定の宗教などに心酔する時になるようになります。「憑依」の代表的自覚症状は、夜に勉強をしたりTVを見ているとき、ぞくぞくとして、まわりでだれかが自分を見守っているという感じがして鳥肌が立つことです。また、集中力が落ちて思考の転換が難しく、健忘症が現れたり、悪夢に苦しめられるようになり、大概は家族の中で死んだ人々がしばしば現れて、自分をどこかに連れていく夢を見て、蛇や犬、猫、赤ん坊などが見えたりもします。これとともに、不眠症に苦しめられ、寝てもうなされて、いつも頭が重くて頭痛が起きようになり、激しい場合は耳鳴りが聞こえたり、知らない人々の声が聞こえたりもします。憑依になれば、まず食事ができなくて、からだが弱々しく痛くて眠れない場合が多いです。また、幻覚が見えたり、幻聴が聞こえて、理由なく一人で歩き回りながら、また他のなにかの霊的な力に支配されて、これが情緒不安、自殺などとして現れます。憑依の病気の共通点は、自我がないということです。

このように、憑依状態になった人々は、精神鑑定が調節できない精神分裂症、性格障害によって無礼な行動を日常行い、または死んだ人に対する恐怖とたましいに心酔した場合があります。これを多重人格者と言えるのですが、医学的に「憑依」現象を「多重人格」症状と診断します。

しかし、聖書ではこの正体を「サタン」(Satan)だと定義しています。サタンは、死んだ家族のふりをして、もっともらしく装い、人間をだまして人間の不安な隙間を利用して入ってきて、自分が「主人」と言いながらだますのです。あるときは、人の声をまねしたり、死者の行動を同じようにしたりします。

ヨハネの福音書8章44節を見れば「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出たので…彼は初め

から人殺しで…偽り者で、偽りの父であるからです」と記録されています。しかし、ヨハネの手紙第一3章8節を見れば「…神の御子が現れたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです」とおっしゃっています。イエス・キリストの御名にだけ、サタンの勢力を完全に追い出せる権威があるのです(マルコの福音書3章15節)。霊的に混迷している21世紀を生きていくためには、精神の健康と合せて霊的な力がかならず必要です。実際に、憑依のような精神疾患を治療するためには、専門医を通じた薬物療法と、専門心理カウンセラーを通じた心理療法(カウンセリング)が必ず必要です。最後に、精神問題は、霊的に題に起因するので、霊的な知識を持った霊的指導者を通じた治療とともになされなければなりません。このような3つの治療が同時に並行されるとき、根本的な治療が始まると明らかにされています。

それで、神様は人間が理解できなくて、解決することができない、このような霊的問題を解決して下さるために「イエス・キリスト」を送ることにされたのです。聖書は、イエス・キリストがこの世に来られてされたこと3つを確かに明らかにしてくれています。イエス・キリストは、神様に会う道になりました(ヨハネの福音書14章6節)。すべての罪と呪い、生年月日による運勢と運命から解放される道になりました(ローマ人への手紙8章2節)。サタン(悪魔)のしわざを滅ぼして、その手に捕まって奴隷の役目をする者たちを解放する道になりました(ヨハネの手紙第一3章8節、ヘブル人への手紙2章14節~15節)。イエス・キリストを信じるとき、神様の子どもになって、すべての苦しみとサタンの手から完全に解放されるようになります。憑依もイエス・キリストを信じれば、完全に終わらせることができます。あなたは大切な人です。

こういうわけで、今は、  
キリスト・イエスにある者が  
罪に定められることは  
決してありません。なぜなら、  
キリスト・イエスにある、  
いのちの御霊の原理が、  
罪と死の原理から、  
あなたを解放したからです。  
(ローマ人への手紙8章1~2節)

## 立派な名前 唯一の名前

世の中には聖賢と呼ばれるほど立派な方がたくさんいます。たまに、人々は釈迦、ソクラテス、孔子、イエス、この四人を地球上の4大聖賢だと言うこともあります。

釈迦は、かつて人生の生老病死と百八の煩惱に対する答えを探しに出て、大きい悟りを得て、人間の根本に対する深い教えを残してくれました。BC 483年に亡くなる前、弟子たちに残した涅槃頃で3つの不可能(三不能)を告白しました。最初「悪業の報い衆生制度不能」自分の悪業の報いは制度的に解決が不可能で、二つ目「無縁衆生制度不能」縁がない衆生は生かすことができなくて、三つ目に「三世衆生制度不能」すべての衆生界をみな救うことはできず、過去と現在、未来を統治するという事は不可能だということです。

「あなた自身を知れ」という言葉で世の中に知らされたソクラテスは、幼い時から幻聴をしばしば聞いて、わけがわからない状態を経験した「神がかりの人」だったと言われていますが、人間の根本を振り返るようにさせる貴重な教えを残しました。BC 399年に毒杯を飲んで死ぬ前に、弟子に「クリトン、私はアスクレピオスに鷄一羽を借りたよ。君が忘れないでこの借金を返してくれるように」と言った遺言は、ギリシャ医術の神であるアスクレピオスにソクラテス自身の苦痛な人生をいやしてくれることを要請したものだとして解釈されています。

「朝に道を聞いて夕に死すとも可なり」という座右の銘を持って生きていた孔子は、人間の道理に対する大事な教えで、多くの人に影響を与えました。彼は論語で告白して、「獲罪於天、無所禱也」(悪を行って空に罪を犯せば訴える所がなくなる)と言いました。ある日、弟子の季路が訪ねてきて「死後にはどうなりますか」と尋ねたとき、孔子が答えて「人生もまだ知らないのに、どうして死に対して分かるだろうか」と言いました。

それなら、**イエス**はどんな方でしょうか。聖書は地球上のどんな人間も避けられない人間の根本問題を解決する「**キリスト**」について知らせています。神様を離れてしまった人間に訪ねてきた原罪、それで孤児のように、ものすごいむなしさと孤独の中を生きていっている人間。リンゴの木なのでリンゴの実を結ぶように、やむを得ず罪人という身分のために、受けるしかない罪と呪いと災いという運命のくびき、そして、だれも教えてくれない霊的問題と暗やみの実体であるサタン(Satan)。これを解決された方が「**キリスト(Christ)**」であることを聖書は語っています。そして、聖書の約束どおり、人間の根本問題を解決するために十字架で死んで3日後に復活して、キリストの働きを成しとげられた唯一の名前がまさに「**イエス**」であると言われています。それで、聖書はイエスを救い主だと語っているのです。**イエス・キリスト**は、立派な名前ではなく、人間の救いのための**唯一の名前**です。

この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」

(使徒の働き 4:12)

### 神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。  
私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。

しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。

イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

### 神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

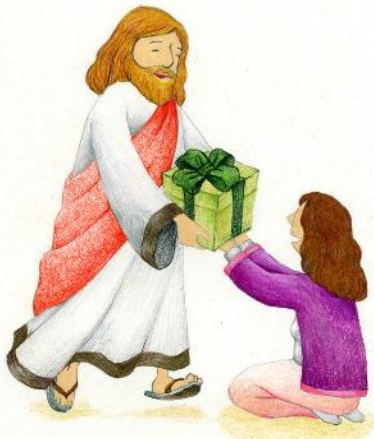
私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

# 真のプレゼントを受け取ってください



イラスト\_シン・チョウンウン

今は成長して、父からおこずかいをもらって、記念日にプレゼントも忘れない娘たちだが、以前にはそうでない時期があった。あるとき、幼稚園に行

く前の年齢だったと記憶しているが、市場に連れて出て行ったところ、市場の入口からかわいい運動靴、頭の飾りゴム、人形の服など、見て触るすべてのものを買ってくれと言うのだ。子どもたちの母親は、あそこの先により良いのがあると子どもたちをなだめながら先立って進むのに、見るのが多くて、ほしいことが多い双子の娘の歩みは遅かった。彼女たちには、先が重要なことでなく、今、目の前に繰り広げられたその場が重要なので、欲しい物をいじりまわした。結局、妻は必要なおかずの材料だけ買って、子どもたちはあまりおいしくないアイスクリームで満足しなければならなかった。

今、家ごとに新年のカレンダーを準備している。そのカレンダーに大人たちは家の大小の行事や記憶しなければならぬことをあらかじめ記録しておくので、子どもたちも負けないように親の部屋にかけておくカレンダーに100点の成績表を表わすように丸印をいくつか書いておく。その表わした日は、自分たちの誕生日であるから記憶しておいて、必ずおこずかいやプレゼントをくれという表示である。より賢い子どもは、何ヶ月前から誕生日が何日か前だとカウントダウンをしたりもする。愛でもらうべきプレゼントを義務で与えなければならぬおかしな風習が作られていっているようだ。

プレゼントは、贈る人やもらう人を喜ばせる。贈る人はあげる楽しみで、もらう人は理由を越えた気配りに感謝しながら受けるので、プレゼントはみんなに喜びを与える。普通の人には、だれでもプレゼントをもらったことも、あげてみたことも経験がある

だろう。心がこもったプレゼントは、どんな価値より尊いが、あるプレゼントは、もらうこと自体が恥ずかしいものもある。お互いのつきあいと期待を大きくするプレゼントは、みんなに自負心になるが、相手から有益を得ようとする軽薄な商才へのプレゼントは、理由のないいらだけ大きくする。

事実、人間がもらって味わう重要なプレゼントは、みな値段がとても高いので、ほとんどタダ（無料）で使っているものなどだ。重患者室で使う酸素タンクの供給量と比較してみれば、私たちが一日の間に使う空気の量は何本分あるだろうか、冬季に私たちの暖房費に入る経費を考えたら、太陽の光があたえる熱量効果はどれくらい大きいのか計算できない。

人間自らの生活が幸せだと知って思いきり選択の幅を広げた人間は、結局、被造物である人間以上のことを追求するので、創造者である神様の座を見下げ、その結果、人間の絶対滅亡という避けることができない座に落ちるようになった。プレゼントは、返す力がない人にあげるのがふさわしいと言われるが、同意できると思うのは、人間こそ神様を離れた問題を自らは解決できないので、神様がくださる恵み、すなわち神様のプレゼントによってだけ解決されるためだ。

プレゼントは与えるものだ。与える行為の反応は受けることだ。受けるときに、プレゼントはいよいよ効力が発生する価値となる。神様は、人生に救いという絶対のプレゼントをくださる。そのプレゼントは、受けることはできるが、神様にお返しする条件を作ることはできない本物のプレゼントだ。私たち伝道者は、そのようなプレゼントを胸に抱いて、現場でプレゼントを配る。返すことができないプレゼントらしいプレゼント、本当に救いのプレゼントを受けとってください。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

\* 相談したい方はこちらまでどうぞ